

日本形成外科学会 会長選出に関するアンケート結果

<回答期間：2018年8月9日 ～ 2018年8月31日>

質問1：会長選出方法について

有効回答件数：94件（評議員150名、回答率62%）

1. 現行のままでよい 49件（52.1%）
2. 変更したほうがよい 45件（47.9%）

質問2：変更の要否、具体的な方法などについてご意見があれば、下記にご記載ください

（現行のままでよい）

- ・ 正確には、どちらともいえないという回答です。他委員のおっしゃる通り、不透明な部分があり、現行がどのように決まっているかわからないため、そのように回答しました。ただ、他の透明性のある方法としては、理事会・評議員会での投票となるかと思いますが、数の論理となり、結局公正性は崩れると思われ、それであれば現行のままでよいと考えました。
- ・ 理事会での理事長選挙候補者の得票数など内容を開示してもらえば結構です。

（変更したほうが良い）

- ・ 全専門医が評議員名簿の中から2-3名を投票
- ・ 結果的に時間がかかるとしても、理事選挙制度の改革とワンセットにするのがいいと思います（理事選挙のほうが、学会への影響がより大きいです）。
- ・ 理事会運営を密室と言われることなく選出方法を可視化し開かれた学会運営を行うべきであると思います。具体的な選出方法については他の学会の選出方法などを調査し参考にしたり、会員からの意見も聴取したりしても宜しいかと思います。
- ・ 立候補による選挙制にすべきだと思います。
- ・ 少なくとも選出の過程を公表し透明化を図る必要があると考えます。
- ・ 評議員会における無記名投票が良いと思います。
- ・ 立候補した方が、どんな学会をどんなテーマで、どんな趣向を凝らしてするかプレゼンしてもらって、あるいは手外科のように文面で明らかにしてもらって、評議員で投票するのは、どうでしょうか？ご検討ください。
- ・ 評議員会の前に立候補受付の機会さえあれば、現行で問題ない。
- ・ 確かに決まり方が不自然で、基準が不明瞭な印象があります。
- ・ 一定数の評議員推薦数を確保したうえでの立候補制
- ・ 会長選は公募として、立候補したい先生には評議員会あるいは理事会でのプレゼンをして頂いたのちに投票ということではいかがでしょうか。

あるいは、プレゼンまでしなくとも希望の先生方や理事の先生方の中で討議されて順番など決めて頂く形でもよいかと思います。

- 立候補制度を取り、多数立候補者がいる場合には代議員会で選挙を行う。
- 現行の選出方法が不明瞭で、公平に自由意思で立候補し、それに対して組織票や何らかの付度や圧力がなく選出されているのか、わかりません。まず、これまでの会長選出の方法をお示しいただき、その問題点を改善する、という過程が必要ではないでしょうか。必ずしも完全に公平である必要はないと思いますが、選出の上で重要視される要素が示されるべきだと思います。
- 一定の立候補条件（これまでの委員の経験などの学会貢献度、関連学会の会長経験など）を備えた方で、20名の評議員の推薦を得て立候補、形成外科専門医によるオンライン投票
- 総選挙
- 現状では、会長の選出の過程が多くの評議員や一般会員にとって不明で、これを感じている評議員や会員も相当数います。これを改善するために、学会理事会など該当の担当者で公平な一定の候補者選出基準を考えていただき、あらかじめ立候補者が開催担当の意思と内容を公表し、これに評議員が投票するといった、より多くの評議員が公明正大と感ずることができる様式に変更した方が良いと考えます。
- 推薦ではなくて立候補制で、選挙で決める。今の「なあなあ」な感じで決めるのはいかなものかだと思います。評議員になって一番違和感があつたものです。
- 現行に変わる良い方法がないように思うが、検討はした方が良い。
- 選出ということからは予め候補者(推薦および立候補)が提示されていた方が良いかと考えます。
- 投票にする
- 最終候補者が絞られていく過程がもう少し透明性があればいいと思います。
- 評議員に関し、大学教授、重要施設長は無投票で指名する。上記評議員数に満たない人数に対してその他施設長等自薦他薦で候補者を上げ、選挙で選ぶ(地域枠は排除)
- 理事に関し、3名連記、もつとも投票数の多かったものを理事長とする
- 学会を公平にかつ透明性をもって運営するためには 次期会長を密室で決めるようなことは望ましくないと思います。堂々と選挙などで決めて下さい。
- 立候補と投票でいいのではないかと思います。
- 政治的な面ではなく、多くの仕事(業績を上げ、学会に貢献)をしてきた人が選出されるべきと考える。

以上